

文京遺跡・御幸遺跡出土の戦争関連遺構・遺物について

愛媛大学埋蔵文化財調査室

現在、埋蔵文化財調査室では、大学構内遺跡の発掘調査報告書の刊行に向けた整理作業を進めています。その中間成果報告をミュージアムエントランスでスポット展示しています。今年度は「記憶」をキーワードとして、3回の展示を計画し、第1回「交流の記憶」を6月3日から8月17日まで開催しています。8月19日に始まる第2回は、愛媛大学城北キャンパスにある文京遺跡と学生寄宿舍御幸寮がある御幸遺跡で発見された昭和時代に入ったころの戦争に関連する遺構・遺物を展示します。

【文京遺跡】

太平洋戦争が終了するまで、城北キャンパス一帯は城北練兵場でした(写真1・2)。文京遺跡の発掘調査を始めると、幅1mほど、深さ0.8m～1mの溝が見つかります(写真3)。小銃の弾丸(口径6.5mm)や薬莖、軍服のベルト金具などが見つかるので、城北練兵場の時代に掘られた溝だとわかります(写真4)。当時は戦場で身を隠し銃弾から身を守る塹壕を掘る訓練を何度も行っていたことから、軍事訓練で掘られた塹壕跡と考えられます(写真1)。

【御幸遺跡】

御幸遺跡の発掘調査では、穴の中から大量の薬莖や模擬手榴弾、そして壊された小銃が出土しました(写真7・8)。御幸寮の敷地は、戦時中、教育学部の前身の一つである青年学校教員養成所(後の愛媛青年師範学校・写真5)だったことから、軍事教練で使われていたものと考えられます。見つかった薬莖はすべて口径が6.5mmでした(写真9左)。口径6.5mmの小銃は三十八年式歩兵小銃で、軍事教練の写真にも写っています(写真6)。御幸遺跡で見つかった小銃の破片は三十八年式歩兵小銃の銃身に取り付けられたボルト金具です(写真9右)。見つかった模擬手榴弾は投擲訓練用手榴弾で、安全ピンを抜き雷管をたたく訓練ができる九七式と呼ばれる鉄製模擬手榴弾(写真10左)と投擲専用の重量約500gの鉄製模擬手榴弾(写真10中)、ゴム製模擬手榴弾(写真10右)がありました。

【意義について】

今回の展示物は、二十代前後の若者たちが体験した戦争の記憶です。

① 戦争という体験(文京遺跡)

城北練兵場では、陸軍歩兵第22連隊の若い兵士たちが訓練する一方で、愛媛大学の前身である松山高等学校、愛媛師範学校、愛媛青年師範学校の学生や教員も軍事教練を受けていました。多くの若者たちは、この場所で軍事訓練・軍事教練を通して戦争に直面していたのです。

② 終戦という体験(御幸遺跡)

戦争遺物が出土した穴の埋められた時期を特定することは難しいのですが、出土状況から、穴を掘って、一気に埋められていますので、おそらく終戦という状況の中で、学校関係者が対処した結果と考えられます。

【公開について】

平成27年8月19日から10月26日まで、発掘報告書に向けた整理作業の中間報告をかねて、愛媛大学ミュージアムのエントランスで「文京遺跡の解明 II、戦争の記憶」として展示します。



写真1 城北練兵場の塹壕群
(昭和7(1932)年・松山大学提供)



写真2 城北練兵場での軍事訓練
(愛媛大学所蔵・和田寿博教授提供)



写真3 文京遺跡 16次調査と塹壕(着色部分)



写真4 文京遺跡 45次調査で見つかった塹壕
(2011年4月14日撮影)



写真5 愛媛県立青年学校教員養成所正門
(愛媛大学所蔵・和田寿博教授提供)



写真6 愛媛県立青年学校教員養成所での軍事教練
(愛媛大学所蔵・和田寿博教授提供)



写真7 御幸遺跡遺構検出状況
(2009年7月31日撮影)



写真8 自衛隊による遺物取り上げ作業
(2009年8月1日撮影)



写真9 御幸遺跡出土遺物
(左:口径6.5mmの薬莖 右:三十八式歩兵小銃のボルト)



写真10 御幸遺跡出土遺物
(左:九七式鉄製模擬手榴弾 中:投擲専用鉄製模擬手榴弾
右:ゴム製模擬手榴弾)